

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 27 日現在

機関番号：24501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520687

研究課題名(和文) 模擬国連交渉プロセスにおける会話表現分析とコーパスデータベースの構築

研究課題名(英文) Model United Nations Corpus and Conversation Analysis

研究代表者

ZENUK 西出 Lori (Zenuk-Nishide, Lori)

神戸市外国語大学・外国語学部・准教授

研究者番号：30453145

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円、(間接経費) 1,230,000円

研究成果の概要(和文)：日本人の英語話者が、大学の国際的な模擬国連で英語のネイティブや外国人と交渉することにおいて、何が欠けているのか、必要なものを理解することを目的とする。

1) 日本人の英語話者のための交渉に関する英語 E L T 教材を批判的に評価し、どのような語彙、文法、機能がターゲットとされるか、その理論的根拠とデータソースを見極めた。2) 口語コーパスの専門家と協力した学識者とアジア各国のネイティブおよび日本人の英語話者から交渉データを収集し、文法、単語と2語以上のことばの語彙の研究を行った。3) 応用会話分析、討論会での相互行為の秩序を研究する分析枠組みを通して、模擬国連の交渉での社会行為について学ぶことができた。

研究成果の概要(英文)：This 3-year project examined what Japanese non-native-English speakers negotiating at international university Model United Nations (MUN) with native and other non-native speakers of English are lacking. This research was accomplished in three stages: 1) By critically evaluating English ELT materials on negotiation for non-native English speakers-identifying what vocabulary, grammar and functions are being targeted, the rationale and data sources. 2) Scholars collaborated with spoken corpus experts and four corpora began to be constructed. MUN negotiation data was collected from native English speakers and non-native English speakers in Japan, Europe and Asia; 3) Through applied conversation analysis, an analytical framework studying the orders of talk-in-interaction, we were able to learn how social acts in MUN negotiation are packaged and delivered in linguistic terms.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：外国語教育

キーワード：コーパス 会話分析 模擬国連

1. 研究開始当初の背景

口語コーパスの専門家は、英語での国際的コミュニケーションの未来は成功した相互行為によると信じ、創られた英語を教えることではなく、「現実」の重要性を説く (Carter & McCarthy 2006)。模擬国連での交渉は日本人の非ネイティブ英語話者にとってより難しいものであり、それは会話的であるとともに対面的であるからである。コーパス言語学の見識によれば、教育された語彙形式の使用頻度が高いことが確認されている (Ellis 2002)。学習者のコーパスは現在、言語教育を向上させるため用いられている (Granger 2002)。口語英語コミュニケーションは適切さに依存する (Carter & McCarthy 2006)。根本的な会話分析の、「なぜ、これが、このように、ただちになのか？」という疑問は、社会行為としての模擬国連の会話における関心をとらえており、その会話とは特殊な言語形式において、社会的に重要な交渉に向けられた連続の一部として発せられるものであり、また社会理論と関連がある (Ragin 1994; Seedhouse 2004)。

2. 研究の目的

- (1) 文部科学省の英語教科書における交渉を批判的に検討し、評価すること
- (2) 4つのタイプの模擬国連会議への参加において交渉スピーチのデータ (日本と日本以外のアジアとヨーロッパの非ネイティブ英語話者とネイティブ話者) を収集し、これをトランスクリプトすること
- (3) 4つのパイロット模擬国連口語コーパスを作成するために専門家と協力する。1) ネイティブ話者、2) ヨーロッパ人で高度の非ネイティブ英語話者、3) 高度のアジア人話者、4) 日本人の非ネイティブ英語話者。将来的にはこれに追加を計画している。
- (4) 模擬国連交渉のコーパス文法、語彙、

単語と2語以上のことば、機能と目的についての予備的分析の開始

(5) 模擬国連の交渉データに関する応用会話分析

3. 研究の方法

この研究で用いる方法のうち、4つがデータ収集の中心となっている：

- (1) 英語教科書のディスコース分析
- (2) 北米、アジア、ヨーロッパでの会議で模擬国連の視聴覚記録を収集し、データをトランスクリプトする
- (3) 模擬国連で日本人のネイティブおよび非ネイティブの英語話者に関してフィールドノートを作成し、インタビューを行う
- (4) 多角的視点を得るために、会話分析とコーパスの研究者と協力する。

4. 研究成果

データ分析はまだ途中であるが、5つの目標に関連した成果は以下のように要約できる。

(1) 文科省の英語教科書における交渉の検討

我々が検討した10冊の文科省認定口語コミュニケーション教科書において、事例の発話交替の種類が、我々のデータにある模擬国連の交渉事例において見られる相互行為 / 発話交替の種類とは似ていないことがわかった。また、発話を交替するために必要な紋切り型のことばが出てこなかったり、あるいは出てくる頻度が限られている。脚本化されていない現実の会話の機会が限定的である。我々の発見は、教科書の改訂が行われたにもかかわらず、教科書の1%以下が本物の会話を載せているにすぎないという Ogura の2008年の発見を裏付けている。

(2) 模擬国連会議での交渉スピーチデータの収集

ヨーロッパ、アジア、北米で開催され、日本人と多様な国出身の英語のネイティブ話者

が参加した 11 の模擬国連からデータを収集することができた。国内で開催された5つの会議では日本人がマジョリティであり、国外では日本人はマイノリティであった。

(3) 模擬国連口語交渉コーパスを作成するために専門家と協力する

我々のコーパスを作成するために、AntConc Cluster/Ngrams 機能を用いながら項目に注釈をつけることによって交渉ディスコースを分析している。コーパスを作成するにあたっての議論に関して、以下の研究者たちに助言を仰いだ：Ken Hyland (香港大学), James Martin (シドニー大学、オーストラリア), John Swales (ミシガン大学アンアバー、アメリカ), Ann Johns (サンディエゴ州立大学), David Rose (シドニー大学、オーストラリア), Frederick Erickson's (カリフォルニア大学ロサンゼルス校), Avril Coxhead (ウェリントン大学)、Charles Browne (明治学院大学、東京)。

(4) 模擬国連交渉コーパスの文法、語彙、機能の予備的分析

これまでに明らかになったのは、交渉でもっとも使用度の高いコロケーションは、他の一般的な口語コーパスとは異なることである。単語レベルの頻度に従って我々のコーパスが増大するため、交渉での次のような紋切り型の「取引」スピーチ(日本人はこれについては得意だと我々が確信しているもの)を集めて分析することを継続して行っている：真剣さを伝える；譲歩する；公式化によって提案を開始し、支持する命題を正当化する；肯定的あるいは否定的見方を示すことで一つの提案に答え、さらに代替案を提示するか、またはその提案を補強する；説得的な理論的根拠と感情によって他の人々に影響を与える；絶対的原理を説明することで、要求を行う。

(5) 模擬国連交渉データの応用会話分析
発言順序の割り当てや、タイムキーパー、相

互行為の監視・仲裁の役割を果たす司会者として会議に参加している間に分析を行った。順番構成と順番達成の単位を、同時的な相互行為の複数のクラスターがひき起こされるところで分析している。順序のタイミングやとり方、様々なギャップや重複、連続発話は、行動や語られる問題に対する一定の理解を与えることがわかった。時間が指定された連続発話はスピーチの速度を一時的に上げることが証明されている。議長の役割を引き継ぎたいと思う者は、引き継ぐ前にまなざしと体勢をその方向に同時に向け、(議長と)同じ身体的ポーズをとる。

研究で蓄積したデータに基づいた記録は今後も続ける予定である。交渉データを収集し、我々の教育実践を向上させてきたこの研究期間中、毎年我々は3日間の国際模擬国連、全日本大学英語模擬国連(JUEMUN)を開催してきた。全日本大学英語模擬国連(JUEMUN)の会議は2011年には43人の参加者(うち日本人38人、外国人5人)だったが、2013年には118人(日本人83人、外国人35人)に増加している。さらに、我々は日本人学生を2012年にカナダで開催されたハーバード世界模擬国連や、2013年、2014年にアメリカ、2013年に韓国、2013年、2014年にローマで開催された模擬国連での議論にも連れていった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計8件)

Zenuk-Nishide, L., & Tatsuki, D.,

Benefits of a Model United Nations,

JALT PANSig, In press

Thorpe, T. Organizing Model United

Nations Simulations. 近畿大学大学院文

芸学研究科紀要 CHAOS. 2013, 10:3,

101-118.

Zenuk-Nishide, L. Rationale and Theoretical Foundation for a Model United Nations. 神戸市外国語大学研究会, 神戸外大論叢, 査読無. 2013, 64(2), 33-51.

Nishide, L. & Tatsuki, D. EFL Student Learning from a Model United Nations Simulation. In L. Zenuk-Nishide (ed.), *Experiential Learning through Model United Nations Simulations: Project Phase 2*. Kobe City University of Foreign Studies, Annals of Foreign Studies. 2012, 82, 89-106.

Tatsuki, D. Integrating MUN Perspectives. In L. Zenuk-Nishide (ed.), *Experiential Learning through Model United Nations Simulations: Project Phase 2*. Kobe City University of Foreign Studies, Annals of Foreign Studies. 2012, 82, 197-112.

Thorpe, T. Preparing Students for a Model United Nations. In L. Zenuk-Nishide (ed.), *Experiential Learning through Model United Nations Simulations: Project Phase 2*. Kobe City University of Foreign Studies, Annals of Foreign Studies. 2012, 82, 49-72.

Paul, A. & Zenuk-Nishide, L. Spoken Interaction Through Discussion: Achievement Through a Focused Systemic-Functional Approach. In L. Zenuk-Nishide (ed.), *Experiential Learning through Model United Nations Simulations: Project Phase 2*. Kobe City University of Foreign Studies, Annals of Foreign Studies. 2012, 82, 19-49.

Zenuk-Nishide, L. A Case for Teaching High Frequency Vocabulary Deliberately and Incidentally. In Kobe Gaidai Ronso.

2011, 62 (1), 105-120.

[学会発表](計19件)

Zenuk-Nishide, L. Japan Model United Nations Proposal Review. United Nations University, Tokyo. 2014年2月25日

Tatsuki, D. Research on Benefits of UN Simulations. Worldwide Educational Forum Rome, 2013年12月4日

Zenuk-Nishide, L., & Tatsuki, D. Benefits of Model United Nations Simulations第39回 全国語学教育学会 JALT, Kobe. 2013年10月28日

Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. Invited. *Problem-based experiential learning: JUEMUN 7th GILE Sig Forum* 第39回 全国語学教育学会 JALT, Kobe. 2013年10月26日

Zenuk-Nishide, L. & Paul A. Teaching and Assessing Genres of Interaction, Seizing the Moment ASFLA, Melbourne, Australia. 2013年10月1日

Zenuk-Nishide, L., & Tatsuki, D., Model United Nations Simulations and Learner Development Kansai International University Conference, Amagasaki 2013年7月20日

Zenuk-Nishide, L., & Tatsuki, D., Invited. The Benefits of Model United Nations (MUN) Simulations JALT Pan Sig Forum, Nagoya. 2013年5月18日

Zenuk-Nishide, L. Invited. Japan Model United Nations Proposal Review. United Nations University, Tokyo. 2013年2月22日

Tatsuki, D & Zenuk-Nishide, L. Invited. University Model United Nations Workshop Tsukuba University, Tsukuba. 2013年1月27日

Thorpe, T. Organizing Model UN Simulations for ESL/EFL Students. Hawaii International Conference on Education, Honolulu, Hawaii. 2013年1月6日

Zenuk-Nishide, L. & Shimoda, J. Autonomous Vocabulary Learning and Assessment through Word Card Study. 11th Seminar for English Language Education, Kansai University of International Studies, Amagasaki. 2012年7月21日

Zenuk-Nishide, L. & Paul, A. Teaching and Assessing Genres of Interaction: A Context-dependent Interaction Instrument (CDII). Genre 2012, Carleton University, Ottawa, Canada. 2012年6月26日

Zenuk-Nishide, L. United Nations Workshop. Doshisha University. 2012年6月16日

Zenuk-Nishide, L. United Nations Workshop, Kobe and Osaka Japan Model United Nations, Amagasaki. 2012年6月2日

Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. The Japan English University Model United Nations. Osaka JALT Back to School, Osaka Gakuin University, Osaka. 2012年4月22日

Zenuk-Nishide, L. & Tatsuki, D. Autonomous Learning in an Imagined International Community: Model United Nations X Annual World Wide Forum on Education and Culture, Rome, Italy. 2011年12月1日

Zenuk-Nishide, L. Model United Nations simulation in the classroom. 第37回全国語学教育学会 JALT Conference, Tokyo. 2011年11月21日

Zenuk-Nishide, L. & Acar, A. Model United Nations builds self confidence 37回全国語学教育学会 JALT Conference, Tokyo. 2011年11月21日
Zenuk-Nishide, L. Invited Lecture. Model United Nations Workshop Osaka University. Society & Teacher Education Course, Osaka University. 2011年6月23日

〔図書〕(計1件)

Tatsuki, D. & Houck, N., Eds., Pragmatics, Teaching Natural Conversation. TESOL, 2011.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等

Japan University English Model United Nations 2012~

<http://juemun.weebly.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ZENUK 西出 Lori (ZENUK-NISHIDE, Lori)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 30453145

(2) 研究分担者

立木 ドナ (TATSUKI, Donna)
神戸市外国語大学・外国語学部・教授

研究者番号： 80347517

Thorpe TODD(TODD, Thorpe)
近畿大学・文芸学部・准教授
研究者番号： 00460676